

# 南の風男子日本代表特集号

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

## やりましたね!!!男子日本代表(アカツキファイブ男子)

歴史的快挙です!!

6月29日(金)に千葉ポートアリーナで行われた、FIBAワールドカップアジア第一次予選において、日本代表男子が見事オーストラリア男子を破りました。**79対78でした!!**

本当に、「よくぞやってくれた!!!」の一言です!! 千葉ポートアリーナで観戦された方、テレビ中継でご覧になった方、ダイジェストで結果を知った方、速報をご覧になった方、いろいろだと思いますが、2016リオ五輪ベスト4の成績を収め、FIBAランキング10位、2017アジアカップ優勝のオーストラリアに勝ったのです!!

今後の男子日本代表の戦いに、一挙に弾みがつきました。

常に女子日本代表に、後塵を拝してきた男子日本代表が世界の舞台でしっかり結果を出しました。

私の感想です。勝因は2つあります、一つは「リバウンド」です。そして次に「ディフェンス」です。確かにファジーカス選手の25点、八村選手の24点は、文句のつけようが無い「大活躍」でした。

しかし、他の選手のリバウンド力(オフェンス、ディフェンスを問わず)は、目に見えないところで効果を発揮しました。まず、オフェンスリバウンドは常に跳ぶこと(参加すること)相手に取られたとしても、簡単にボールを前に進ませないこと。ディフェンスリバウンドでは、相手よりも早く跳ぶこと(特に男子の場合、スクリーンアウトよりも相手のオフェンダーに一瞬コンタクトして、リバウンドに行くことを躊躇させて、素早く跳ぶことが有効)が随所に見られました。

ディフェンスに関しては、メンタル面の充実がステップアップの原因だと思われます。フリオコーチになってから感じられるのは、「1対1で簡単にやられない」ことの徹底だと思います。

おそらくフリオコーチはディフェンスの重要性を、事細かくそしてメンタリティーの充実についても選手に語り掛け、定着させたのではないのでしょうか。

さあ、いよいよ勝負の7月2日のチャイニーズ・タイペイ戦(アウェー)です。ご承知の通り、この一戦に勝利すれば、予選の第2次ラウンドに進みます。前回のチャイニーズ・タイペイ戦では、ファジーカス選手、八村選手がいない中で、69対70での負けでした。

普通に考えれば、当然日本代表の方が有利に戦えるはずですが、もちろん何が起こるか分からないのが、国を挙げてのワールドカップです。心して戦わなければならないのは言うまでもありません。

最後に、私が男子日本代表に期待することです。ただ一点です。

3Pシュートを決め切ることです。このオーストラリア戦で3Pシュートを決めたのが、ファジーカス選手2/3、八村選手2/3の4本でした。トータルで見ると日本は4/16でした。要するにファジーカス選手、八村選手以外は3Pを決めることができなかったのです。特にガード、フォワードの奮起を期待します。兎にも角にも3Pを含めシュートは、あれこれ考えず、「踏ん切りよく、スパツと打つ」ことが最も大事です。ここまで来たのです。やるしかありません!!!

目指せ! 第一次予選突破!!!